

つくば駅周辺の落書きの分布に関する考察

A Spatial Study on Graffiti Distributions in Central Tsukuba Area

小野澤 泰子 (地球科学専攻 人文地理学分野)

ONOZAWA Yasuko (Major in Human Geography)

(1) 研究目的

近年つくば駅周では落書きが急増し社会問題化している。2007年11月1日には「つくば市きれいなまちづくり条例」が施行され、市内全域における落書きを禁止する内容が盛り込まれたが、依然として駅周辺の落書きの多さが目立ち問題は解決していない。一般的には軽く見過ごされている「落書き空間」は、地域の治安を悪化させる要素を視覚的に作り出す場所と捉えられる。本研究ではそうした都市の盲点を意識化、また視覚化し、その空間の分布と傾向を分析することを目的とする。

(2) 対象地域

対象地域は、つくば駅・つくばバスターミナルを中心とした半径約300メートル内の地域とする。また地域ごとの落書きの傾向を比較するために、吾妻二丁目住宅と中央郵便局のあるブロックも対象地域に含めた。

(3) 調査・分析方法

現地調査では ArcPAD を使用。落書きがされている場所でその属性 (落書きの種類、大きさ、書くのに使われた道具、色、判別可能な特徴など) をポイントとして記録し、写真を撮る。取得したデータは ArcGIS を用いてそれぞれの属性ごとに地図化し、地域ごとの特徴を比較検討した。

(4) 結果・考察

対象地域内全域で 225 個の落書きをみる事ができた (図1)。図2でも分かるように、駅・バスターミナル周辺、交差点、陸橋付近などの、たくさんの人が通過地点としてだけ使うような場所に特に多く集中する傾向がある。一方、住宅地、学校、メンテナンスの行き届いている公共施設 (図書館、中央郵便局等) 及び商業地域等の「住民の目」がある場所には少ない傾向にあることがみとめられた。



図1 落書きと消去跡の分布

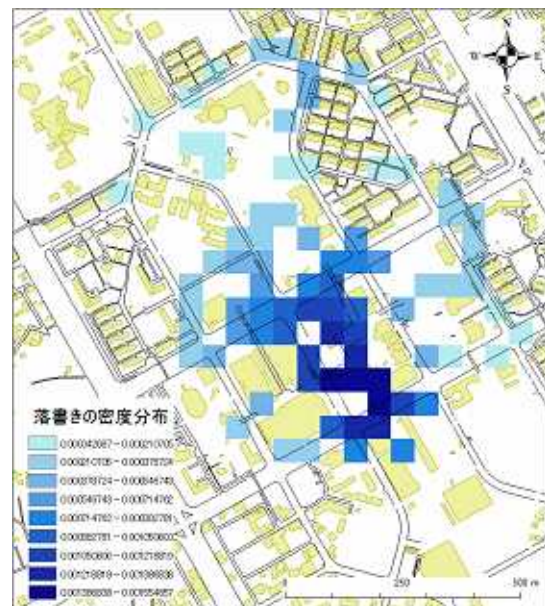


図2 落書きの密度分布